

BCP（事業継続計画）策定における現状の課題とその解決策

課題 1. 全体最適化

地震のような広域災害における現状のBCPは、各拠点ごとに個別最適化はできていても、企業全体で見た場合の全体最適化はあまり考慮されていない場合がほとんどで、実効性の面からは課題が多いようです。

この傾向は部門間の縦割りの影響で、企業の規模が大きくなるほど顕著になっています。BCPの要は、災害時に事業やそれが利用している経営資源を取捨選択することによる企業全体の最適化で、各拠点ごとの個別最適化では、BCPとしての実効性を確保することが困難となります。

これに対して弊社の提供するサービスは、全社で同一の被災・復旧状況を共有し、これをもとにまず全社レベルの復旧方針を策定し、これに基づいて各拠点で復旧方針と復旧行動計画を策定しますので、策定された行動計画は結果として全体最適化されたものになり、実効性が確保できるようになります。

課題 2. 復旧行動計画の具体性

地震のような広域災害の場合は、各地域の社会インフラやサプライヤー等を含めた具体的な被災状況をイメージすることがむずかしいため、これに伴う復旧行動計画も漠然としたものになりがちで、BCPの実効性の面での課題になっています。

これに対して弊社の提供するサービスは、社会インフラやサプライヤー等を含めた経営資源相互の依存関係を考慮したシミュレーションにより、具体的な被災状況を時系列で可視化し、これをもとに復旧行動計画を策定するため、より具体的で実効性のある復旧行動計画を策定することが可能となります。

課題 3. 効果的な演習

BCPを実効性のあるものにするためには、演習は必要不可欠ですが、この演習を効果的なものにするためには、被災シナリオに基づく被災イメージやそれからの復旧イメージを参加者全員が共通に描けることが重要になります。しかし現状では情報が不足していて、共通のイメージが描けず、各々のメンバーが異なったイメージのまま演習を実施している場合が多く、折角の演習の成果があまり期待できない場合が見受けられます。

これに対して弊社の提供するサービスは、BCPの分析結果を基に、被災シナリオにおける各経営資源の被災および復旧状況の時間経過を可視化し、この可視化した情報を参加者全員が共有することにより、被災

シナリオにもとづく被災イメージやそれからの復旧イメージを具体的に描くことが可能になるため、効果的な演習を実施することが可能となります。